

令和6年3月18日

保護者様

京都市立上賀茂幼稚園
園 長 村山 得太郎

幼稚園評価の結果について

春寒の候、保護者の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より本園の保育・教育にご支援ご協力賜りありがとうございます。ゆり組はいよいよ明日、修了式を迎えることになりました。保護者の皆様には心よりお祝い申し上げます。ゆり組、ばら組、ひよこ組、それぞれの子どもたちがこの1年で本当に成長したと思います。進級、入学しても上賀茂幼稚園で過ごしたことを忘れず、やりたいことを見つけ、遊びこんでほしいと思っています。

さて、2月の生活発表会後に実施しました幼稚園評価にご協力いただき、ありがとうございました。大変遅くなりましたが、アンケートの結果をグラフ化し別紙にまとめましたのでご覧ください。分析につきましては、学校運営協議会の皆様にもご意見をお聞きし、下記の通り、領域ごとにまとめました。

【子どもの様子】

◆幼稚園の保育を通して身に付けてほしい力の中で6項目の様子をお尋ねしました。ゆり組では100%がAとBの評価でした。「⑥あきらめずに取り組む」という項目では、ばら組、ひよこ組で遊びに気分が乗らなかったり、「できないよ」と言ってしまう時があったりするようで、前回よりC評価が増えました。幼稚園の中では、お友達に刺激を受けたり、先生から勧められたりしながら、気分を変えて取り組んでいる様子があります。「④友達との関わりを大切にする」という項目では、A評価が増え、C評価が減りました。同じクラスで過ごす時間が増えてくるにしたがって、関わりもできてくるようです。「③生き物や植物などを大切にする」という項目は、A評価が減ってB評価が増えました。園内での子どもたちの様子は特に変わってはいませんが、ウズラやカメ、ザリガニなどの生き物を飼っているゆり組は、生き物と関わる時間が多いのでA評価が多くなっていると思います。

【幼稚園の取組】

◆すべての項目において、「そう思う」、「だいたいそう思う」の回答を合わせて100%に近い評価をいただきましたが、担任の先生とのお話があまりできていないこと、トイレの便座が冷たいことなどが、C・Dの評価理由として挙げられていました。預かり保育後のお話は伝達方法を工夫して取り組んでいきたいと思っています。また、トイレにつきましては、園の予算では難しい面もありますので、今後、検討していきたいと思っています。また、保育の内容についても研究発表や研修を通して、また、京都市教育委員会の先生のご指導を仰ぎながら、質の向上に努めています。今後も回答の結果に甘んじることなく、毎日子ど

もの心に届くよう丁寧に保育をしていきたいと思います。保育の在り方、子どもたちの様子、子育てで気になることや困っていることなどがありましたら、遠慮なく相談してください。保護者の皆さんと幼稚園とが協力し合って子どもたちを育んでいきたいと考えています。

【家庭での取組】

◆ご家庭での丁寧な関わりや細やかな声かけの様子が伝わってきました。ご家庭での安定した様子が、幼稚園での生活の支えになっています。今後ともよろしく願いいたします。CやDの評価での記述は、お仕事などで忙しく、「十分に声掛けができていない」、「甘えをきいてしまっている」、との声がありました。前回もお伝えしましたが、子どもに対して、あきらめずに工夫や声かけを続ける必要はあると思いますが、ストレスをためない範囲で取り組んでもらうことや保護者同士のつながりで工夫を伝え合うことができればいいのではないかなと思います。

【地域や学校との連携】

◆ゆり組は、ほぼ100%の回答でした。子どもたちも小学校との連携や地域の方が来てくれていることをわかってきていると思います。小学校との連携はゆり組中心ですので、ばら組、ひよこ組の子どもたちは実感がわかないと思います。次年度の小中連携の計画については、小学校やこども園と相談を始めて「架け橋プログラム」（就学前の5歳児と小学校1年生の2年間を今後の学びに重要な時期であるという位置づけで「架け橋期」といいます。）の研究を進めていく予定です。地域の行事は今年度から再開されたことが多いので、次年度も幼稚園の行事、学区の行事とも連携を進めていきたいと思っています。

□自由記述欄につきまして、様々のご意見・ご質問ありがとうございました。今後の園運営の参考にさせていただきます。また、ご質問やご指摘された点に関しましては、個別にお答えさせていただいています。今後ともお気づきの点がございましたら、登降園の際にお話していただくか、アプリのメールでご連絡ください。よろしくお願いいたします。

□最後に、幼稚園としては、子どもたちが毎日「幼稚園で遊びたい」「明日は〇〇をやりたい」と思ってもらえるように保育していきたいと思っています。そして、そのやる気や主体性を大切に一人一人の子どもに寄り添いながら、イメージを広げて遊べるように、なかまと一緒に遊べるように援助していきたいと思っています。